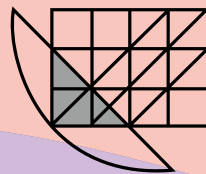


博物館だより



和歌山県立博物館

WAKAYAMA PREFECTURAL MUSEUM

No.28

2023.3

紀州・明恵上人伝 開催

特別展 生誕850年

明恵 生誕八五〇年

承安三年（一一七三）、紀伊国有田の地に明恵上人は生まれました。明恵が生まれてから八五〇年を迎える令和五年（二〇二三）秋、和歌山県立博物館では、一〇月一四日（土）～一二月二六日（日）（期間中に展示替えあり）の会期で特別展「紀州・明恵上人伝」の開催を予定しています。本展では、紀州における明恵の足跡をたどりつつ、その生涯を彩る芸術と伝説を通して明恵上人讃仰の歴史を紐解きます。

湯浅一族と明恵

明恵は、当時湯浅を本拠地としていた武士・湯浅宗重の四女を母とする、湯浅一族出身の高僧です。紀州では、湯浅（保田）宗光などのしつらえた庵や館を拠点として、弟子たちと修練の日々を過ごしました。上人示寂前年の寛喜三年（一一三三）、明恵の従兄弟にあたる湯浅宗重は、かつての



明恵上人像 施無畏寺蔵

修行地である白上峰の麓に施無畏寺を建立し、明恵に寄進しました。

重文・湯浅景基寄進状

施無畏寺の四至と領域内での殺生禁断を定めた寄進状が、同寺に伝わっています。冒頭の自筆袖書により、明恵本人が病を押して落慶供養に訪れたことが知られ、末尾には湯浅一族の誓いの連署が見えます。紙の継ぎ目に書かれた裏花押を含め、最晩年の上人自筆であるとともに、明恵への崇敬のうちに結束した信仰の武士団・湯浅党のありようを、もつとも華やかに示す根本資料です。

これとほぼ同様の内容の寄進状が大谷大学博物館に所蔵されています。こちらは高山寺の印を有することから、明恵の手元で保管されたものであったようです。今回、この大谷大学本と施無畏寺本の同時展示を、本展および大谷大学博物館特別展「古典籍の魅力 二〇二三（一〇月一〇日（火）～十一月二八日（火））にて計画中です。大谷大学本はなんと学外初公開とのこと、乞うご期待です。



裏花押
(紙本墨書置文 施無畏寺蔵)



重要文化財 湯浅景基寄進状 大谷大学博物館蔵



重要文化財 紙本墨書置文 施無畏寺蔵

伝説の舞台は紀州

京都の神護寺や高山寺での活躍がよく知られていますが、青年の頃には幾度も紀州へ戻っており、厳しい修行に臨んでいたといわれています。施無畏寺が建立された栖原の白上峰は、仏眼仏母の前で自らの右耳を切り文殊菩薩が影向したという、最も印象的なエピソードの舞台です。また釈迦を思慕するあまり、天竺（インド）への渡航を決心しようとする明恵を引き留めた、春日明神託宣の伝承は、湯浅宗光の館（星尾）での出来事。一族が目にしたという様々な奇跡が後の明恵上人伝説となっていたのです。

春日明神を守護神と捉えた明恵は、星尾において、春日・住吉両明神の像を描かせました。高山寺に絵像（南北朝時代）が伝来するほか、紀州では施無畏寺に彫像（室町時代）が伝わっています。彫刻の春日明神立像は女性の姿で、高山寺の絵像とは男女の別という明らかな相違があり、近年、むしろその容姿は高山寺に伝わる善妙神立像に近いとの指摘もなされています。善妙神について、明恵は、海に向こうの新羅に由来する華嚴を守護する護法神として奉祀しました。紀州所在の明恵に関連する寺院に、いまなお示唆に富む文化財が数々残ることも注目されます。



国宝 仏眼仏母像 高山寺蔵（写真パネルで展示予定）

明恵上人紀州八所遺跡

春日・住吉大明神像 高山寺蔵



明恵の没後、高弟・喜海は上人の行状記をまとめ、紀州での日々を支えた湯浅一族とともに、明恵の生誕地や修行の拠点に卒塔婆を建てて「明恵上人紀州八所遺跡（国指定史跡）」を定めました。行状記に加え、高山寺経蔵をはじめとする典籍や文書の奥書などからは、各拠点でまとめた著作や、湯浅一族のための祈禱のようすなど、紀州における日々が垣間見えてきます。明恵上人ゆかりの仏画や仏像は、故郷で重ねた思索と深いかわりをもつのです。

喜海らが嘉禎二年（一二三六）に建立した木製の卒塔婆は、康永三年（一三四四）、弁迂と湯浅一族によって石造卒塔婆に建替えられました。今日も七か所の遺跡でその姿を見ることができ、国の史跡に指定されています。



重要文化財 善妙神立像 高山寺蔵（写真パネルで展示予定）



湯浅町指定文化財 春日明神立像 施無畏寺蔵

明恵上人の足跡～国指定史跡「明恵紀州遺跡率都婆」とゆかりの寺院～



出典：国土地理院ウェブサイト（<https://maps.gsi.go.jp/vector/#11.445/34.128883/135.278837?&ls=vblank&disp=1&d=1>）
地理院タイル（白地図タイル）を加工して和歌山県立博物館が作成

- 承安3年（1173） 有田郡石垣庄吉原村で誕生
- 養和元年（1181） 神護寺の文覚・上覚に師事
- 建久6年（1195） 神護寺を出て白上峰に結庵
- 建久7年（1196） 仏眼仏母の前で右耳を切る
- 建久10年（1199） 筏立で十六羅漢を夢に見る
- 建仁3年（1203） 糸野で「華嚴善知識念誦次第」
- 建仁3年（1203） 星尾で春日明神の託宣
- 元久元年（1204） 神谷へ 養父崎山良貞の最期
- 建永元年（1206） 高山寺の地を賜る
- 承元4年（1210） 崎山で「金師子章光頭鈔」
- 寛喜3年（1231） 施無畏寺本堂を供養
- 貞永元年（1232） 高山寺で示寂
- 嘉禎2年（1236） 喜海、紀州八所遺跡発願
- 弘長2年（1262） 星尾寺で大明神講
- 康永3年（1344） 弁迂、石造卒塔婆に再建

- | | | | |
|--------------|-----------------|------|------------|
| 1 吉原遺跡 | 有田川町歎喜寺字中越179 | 歎喜寺 | 有田川町歎喜寺159 |
| 2 西白上遺跡 | 湯浅町栖原1465付近 | 施無畏寺 | 湯浅町栖原1465 |
| 3 東白上遺跡 | 湯浅町栖原1465付近 | 神光寺 | 有田市星尾700 |
| 4 筏立遺跡 | 有田川町歎喜寺字西原1103 | 浄教寺 | 有田川町長田542 |
| 5 糸野遺跡 | 有田川町糸野字上人谷650-1 | 勝楽寺 | 湯浅町別所165 |
| 6 星尾遺跡 | 有田市星尾700付近 | | |
| 7 神谷後峰遺跡 | 有田川町船坂字聖人793-1 | | |
| 8 内崎山遺跡（町指定） | 有田川町井口22-2 | | |

※拝観・文化財の見学希望の際は寺院にお問い合わせください。
※勝楽寺拝観は団体のみ受付。

史跡について調べる▶



春特別展

きのくにのこなにわ小浪華

「湯浅ゆかりの文人の書画」

4月29日(土)～6月18日(日)

江戸時代、湯浅は、紀伊国内有数の商業都市として栄えました。醤油醸造業の発展に加え、湯浅村や近隣の栖原村から商業や漁業に携わるものたちが、江戸や房総半島など関東にも進出し、故郷に富をもたらしました。

一九世紀になり、日本の各地で豪商や豪農らが文雅を嗜み、江戸、京、大坂の三都の文人たちとの行き来も盛んになると、紀伊国では、湯浅がその中心となりました。世代をこえて京や江戸の知識人となつたりもつた垣内氏出身の漢詩人・菊池海莊(一七九九～一八八一)の元へは、各地の文人が訪れていました。また湯浅に住む人々も、詩人結社である古碧吟社の活動をはじめ、漢詩や書画に親しんだ様子がかがえ



花鳥図 池永柳潭筆 深専寺蔵



菊池海莊像 九鬼虚白作 湯浅町教育委員会蔵



古碧吟社小稿 松原永年編 湯浅町教育委員会蔵

ます。商都として繁栄し、裕福な商人らが文芸を嗜み、交流した江戸時代の湯浅は、浪華(大坂)を思わせるような地方都市であり、「きのくにの小浪華」と呼ぶのにふさわしい展開をみせました。この展覧会では、近年、湯浅町に寄贈された菊池家史料をはじめ、古碧吟社に参加した人々や、湯浅ゆかりの絵師がのこした書画を中心に展示し、湯浅における文芸活動の足跡をたどります。

お身代わり仏像製作記録集 発刊

県立博物館では、県立和歌山工業高等学校、和歌山大学教育学部等の教育機関の協力を得て、3Dプリンタを用いた文化財の複製を作り、文化財の防犯や防災の対策への活用を図っています。高齢化や人口減少などの要因により、管理や保全が困難になっている地域の寺社にある文化財を博物館で保管し、かつ、信仰されてきた環境を維持するための取り組みで、平成二四年度から令和四年度までに、県内二〇か所の寺社に三六体の「お身代わり仏像/神像」を安置してきました。平成二二年度に発生した連続六〇件という大規模な文化財盗難被害に端を発するこの「お身代わり仏像」事業は、様々な方の知恵と力に支えられ、継続してきました。文化財盗難対策への活用は、それ以前から、県立博物館が県立和歌山工業高等学校や県立和歌山盲学校と連携し模索してきた文化財複製の製作と活用への取り組みの延長線上でもあり、その試行錯誤の過程には、他の博物館における複製活用の多様な可能性のヒントが隠れているかもしれません。



お身代わり仏像を手渡す県立和歌山工業高等学校産業デザイン科および県立笠田高等学校美術部の生徒

もちろん、信仰対象である仏像を写して作ること、複製を安置することに対する疑問の声も聞かれます。けれども、人々の信仰が積み重なった大切な仏像や神像は、地域の歴史そのもの。我々人間よりもずっとずっと長く生きる「歴史の証人」としての文化財と、その歴史をつないできた地域の記憶を、ともに継承していくための連携事業となっていれば幸いです。複製を製作するのは、和歌山県内の高校生や大学生。この貴重な機会に、一人でも多くの未来世代に当事者として関わって欲しいと考え、令和四年度の製作では、複製の着色を県内高等学校の美術部に依頼する試みを始めました。この度、生徒たちの真剣なまなざしと発見をまとめた「お身代わり仏像製作記録集」を発刊します。



細野阿弥陀寺・阿弥陀如来坐像のお身代わり仏像を着色する県立向陽高等学校美術部の生徒



極楽寺に奉納した菩薩坐像のお身代わり仏像

企画展	企画展	企画展	企画展	企画展	企画展	企画展	常設展
新収蔵品展	高野山寺領の村	生誕850年 記念 特別展 紀州・明恵上人伝	企画展 法燈国師	夏休み 子ども向け 企画展 きのくにのかたな 和歌山県立博物館の赤羽刀	特別展 きのくにの小浪花 湯浅ゆかりの文人の書画	企画展 川とともに生きる 川と人の関係史	きのくにの歩み 人びとの生活と文化
2月23日(金)祝 4月14日(日)	12月16日(土) 2月12日(月)祝	10月14日(土) 11月26日(日)	9月2日(土) 10月1日(日)	7月1日(土) 8月27日(日)	4月29日(土) 6月18日(日)	3月11日(土) 4月23日(日)	4月1日(土) 10月1日(日) 12月5日(火) 3月31日(日)
和歌山県立博物館では、主要な作品をイヤホン式ガイド機で解説する音声ガイドをご提供しています。(一般200円、高校生以下110円)。	江戸時代、紀伊国の大部分は紀伊藩領でした。しかし、中世から高野山の領地であった高野山の麓の一部は、江戸時代そのまま高野山寺領となりました。この企画展では、高野山寺領で暮らす人々の生活や文化を紹介します。	承安3年(1173)湯浅宗重女を母として生まれた明恵上人は、神護寺や高山寺などで活躍する傍ら、幾度も紀州で修行を重ね、故郷のために祈りを捧げました。湯浅一族の記録やゆかりの芸術を通して、紀州の明恵上人像を紐解きます。	法燈国師(無本覚心)は、鎌倉時代末期に活動した禅僧で、現在の由良町に西方寺(後の興国寺)を開き、紀伊半島に大きな足跡を残しました。この企画展では、法燈国師の事績とともに、その弟子たちの動向についても紹介します。	アジア・太平洋戦争の終結後、連合国占領軍によって接收され、東京都北区赤羽の米軍兵器補給廠に集められた刀のことを「赤羽刀」と呼びます。平成11年に国から当館へ譲与された「赤羽刀」43点を、初めて全て展示します。	商都として繁栄し、裕福な商人らが詩書画を嗜み、江戸をはじめ各地の文人も訪れた江戸時代の湯浅は、浪花(大坂)を思わせるような地方都市でした。湯浅ゆかりの文人がのこした書画を中心に展示し、文雅のいとなみを紹介します。	人々は、川から水を引いて作物を育て、川を利用して船で物資を運びました。一方、川の水をめぐって争い、大水(洪水)で命や財産を奪われることもありました。歴史における川と人とのかわり、さまざまな作品から紹介します。	3万年にわたるきのくに―和歌山県の歴史を、人びとの生活と文化を主題として、7つのコーナーに分けて、時代の順にわかりやすく展示します。なお、特別展「紀州・明恵上人伝」の開催期間中は、常設展示を行っておりません。

お知らせ

◆博物館では、主要な作品をイヤホン式ガイド機で解説する音声ガイドをご提供しています。(一般200円、高校生以下110円)。

◆博物館では、学校行事での利用はもちろんです、職場体験やミュージアムボランティア・教員研修など、学校と連携した教育・普及活動にも取り組んでいます。詳しくは当館学芸課までお問い合わせ下さい。

またホームページにも案内を掲載しています。

URL <https://hakubutu.wakayama.jp>

和歌山県立近代美術館(博物館となり)の展覧会

企画展 「云ノウエ」 描く 石版画と作り手たちの物語

企画展 「なつやすみの美術館13」

特別事業 「トランスポーター 和歌山と移民とアメリカ美術」

特別展 「原勝四郎展」

4月22日(中)〜7月2日(日)

7月11日(火)〜9月10日(日)

9月30日(中)〜11月30日(木)

10月7日(中)〜12月3日(日)

博物館の利用案内

開館時間 午前9時30分〜午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日 月曜日(祝休日の場合は翌平日)、年末年始。展示替えや改修工事ともなって臨時休館する場合があります。詳しくは博物館までお問い合わせください。

駐車場

入館者	2時間まで	無 料
	以後30分ごと	100円

※大型バスでご利用の場合はお問い合わせ下さい。

交 通



JR和歌山駅または南海和歌山市駅から「県庁前」(バス停)下車、徒歩2分

入 館 料

〈常設展・企画展〉

個人	280円	大学生 170円
団体	230円	140円

※高校生以下、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方、県内に在学中の外国人留学生は無料です。

※企画展示室の展示替え期間中は常設展示のみとなります。

〈特別展 きのくにの小浪花―湯浅ゆかりの文人の書画―〉
(常設展示も行っていません)

	一般	大学生
個人	520円	310円
団体	420円	250円

〈生誕850年記念特別展 紀州・明恵上人伝〉
(常設展示は行っていません)

	一般	大学生
個人	830円	520円
団体	680円	410円

まちなかの博物館・美術館をめぐる!

和歌山市内5館(和歌山県立近代美術館、和歌山県立博物館、和歌山市立博物館、和歌山城天守閣、わかやま歴史館)の相互割引制度がありますので、是非ご利用ください。

和歌山県立博物館 博物館だより 第28号

編集 和歌山県立博物館

〒640-8137 和歌山市吹上二丁目4番14号

TEL(073) 43618670

<https://hakubutu.wakayama.jp>

令和5年(2023年)3月発行